登米市議会意見交換会質問・意見等に対する回答一覧表　（津山町）

（平成29年1月末現在）

分　野	質問・意見・要望・提案の内容	担当課	回　答
⑤コミュニティ、集会施設、公民館	一括交付金制度になり仕事も増えているのに、公民館の館長は非常勤で、ボーナスも出ない。館長を常勤にし、きちんと待遇するべきではないか。これでは後が続かない。	教育委員会　生涯学習課	担当部署へ確認したところ、「公民館の館長の業務につきましては、年々増加傾向にあり、また、コミュニティ組織に係る業務も拡大しています。教育委員会としましても、管理責任者としてあるべき職務内容や現状における勤務実態を詳細に調査し、適切な処遇について検討します。」と回答がありました。
⑥教育	幼保一元化は簡単にできるのになぜできないのか。津山の場合、なぜできないのか。柳津にもっていけばいい。	福祉事務所　子育て支援課	幼保一元化になるよう、努力していきます。
	児童施設が貧弱だ。登米市全体を見回しても津山は弱い。議員は認識してほしい。	福祉事務所　子育て支援課	ご意見として、拝聴いたします。
⑦公共施設、跡地利用	懐古館の改築は、小関邸を含めた形で進められているが、取り付け道路の使用許可など、地主の許可は得られているのか。反対しているわけではないが、着実に進められたい。	教育委員会　文化財文化振興室	担当部署へ確認したところ、「地権者の承諾を得て事業を進めております。」と回答がありました。
⑩病院	医療資源を集約化してきたのに、米谷病院を改築するという医療行政は矛盾しているのではないか。	医療局　企画課	合併当初、2病院5診療所とする方針でしたが、3病院4診療所とすることが第2次改革プランで承認されたことによります。
	病院の赤字はいくらか。また、累積赤字はいくらになっている。	企画部　財政課 医療局　企画課	震災以降、一時黒字の年もありましたが、平成26年度から年間約10億、累積では27年度末で約125億の赤字となっています。
	医師確保にどのような努力をしているのか。	医療局　総務課	働きやすい環境をつくることで、医師が辞めることも防ぎたいと考えています。
	医師が不足している中、津山診療所は休診した。市長のミスではないか。	医療局　総務課	担当部署へ確認したところ、「平成28年3月まで津山診療所に勤務をいただいていた医師は宮城県ドクターバンクからの派遣による2年契約の勤務でした。後任の医師確保に向け東北大学や宮城県と調整を行ってまいりましたが、医師確保までには至らず平成28年4月からやむを得ず休診とさせて頂いているところです。 一刻も早く診療を再開できるよう、今後も医師確保に努めてまいりますので、ご理解をお願いいたします。」と回答がありました。
	津山診療所が休診となり、もくもくバイオマス発電計画も中止になったが、いつも中止が決まってからの報告となり、中止に至る過程が市民にはわからない。中止を決定する前に、地域住民に知らせてほしい。	医療局　総務課 産業経済部　産業政策課	担当部署へ確認したところ、「津山診療所については、医師の確保や他の市立医療機関からの診療応援も含め、休診することのないよう直前まで調整したものの、結果として休診せざるを得ない状況となり、その旨は平成28年2月29日に開催された津山地区区長会において、経過とともにご説明をしてきたところです。 また、道の駅津山・もくもくランド木質バイオマス発電施設導入事業を中止することについては、関係団体等に対して説明を行っております。今後このような事案が発生した場合には、地域住民の皆様に対しましても必要な情報の提供に努めてまいります。」と回答がありました。
⑪国際交流	国際交流事業で市内の中高生を海外に派遣しているが、市は単に国際交流協会に丸投げしているのではないか。その費用対効果を検証すべきである。	企画部　市民協働課	担当部署へ確認したところ、「国際交流事業を効率的かつ円滑に運営するため、市では青少年国際交流事業実行委員会を設置しています。実行委員会は、登米市中学校校長会2名、国際交流協会3名、PTA連合会会長、教育部生涯学習課長で構成し、実行委員会において事業計画の立案や派遣団員の募集、選考等を行っており、国際交流協会に委託事業としてお願いしているものではございません。」と回答がありました。
⑫市民生活、健康推進	津山診療所が休診になり、現在、豊里病院へ行くお年寄りが多い。さらに以前は、住民バスが2往復していたが、今は1往復だけになったことで、帰りのバスがない。改善すべきである。	医療局　総務課	担当部署へ確認したところ、「これまで津山町から豊里病院への交通手段としての住民バスは運行しておらず、平成10年9月の旧公立豊里病院津山診療所の開設を機に豊里病院の患者送迎バスが1日1往復での運行（津山地区：月・水・金、横山地区：火・木）を開始し、現在1日約11人の患者さんに利用していただいている状況にあります。 患者送迎バスの運行にあたっては津山地域住民バスと津山診療所において接続するように運行時間を設定しており、住民バスから患者送迎バスへの乗り換えによる豊里病院への通院が可能となるよう、利便性向上に努めております。 また、豊里病院からの復路については、往路の逆順で運行しており、帰宅時の交通手段についても確保しております。 豊里病院への通院患者さんの更なる利便性向上のためにも、患者送迎バスを1日2往復運行できれば良いところですが、運転手や車両の確保の都合により、現体制では厳しい状況ですので、ご理解をお願いいたします。」と回答がありました。

登米市議会意見交換会質問・意見等に対する回答一覧表　（津山町）

（平成29年1月末現在）

分　野	質問・意見・要望・提案の内容	担当課	回　答
⑫市民生活、健康推進	総合健診で、前立腺癌の検診は74歳までで、75歳以上は受けられない。石巻市では年齢制限はない。登米市も年齢制限をなくしてほしい。	市民生活部　健康推進課	担当部署へ確認したところ、「県内各市町村において前立腺がん検診を実施しており、対象者や個人負担金額については様々な取り決めのもと実施しております。 本市では50歳から74歳の男性を対象とし、PSA（前立腺特異抗原）の検査を実施していますが、現在、国のがん検診のあり方に関する検討会で、がん検診のあり方について議論されており、今年中には第3期がん対策推進基本計画が策定され、これから10年のがん対策のビジョンが示されることから、これらの情報を踏まえ検討してまいります。」と回答がありました。
⑳まちづくり	各支所に10億円規模の予算をつけることで、それぞれの支所が活性化すると思うが。	総務部　人事課	担当部署へ確認したところ、「少子高齢化などに伴う人口減少に加え、地方交付税の算定替えによる歳入減など行政における経営資源の縮小が見込まれる中にあって、持続可能なまちづくりを進めていくためには、地域が主体性をもって公共を担う仕組みづくりが必要となります。 このため、今後、総合支所は「地域づくり支援業務」「市民の生命と財産を守る安全・安心に関する業務」「市民の健康長寿・相談・窓口業務」の3業務に特化し、地域の自立支援等に重点を置いたコンパクトな運営に取り組むこととしていることから、大きな規模の予算措置は予定しておりません。」と回答がありました。
㉗その他	登米町に震災で出た大量の鉄くずが積み上げられている所があるが、市で管理しているのか。	市民生活部　環境課	市で管理はしておりません。個人業者が管理している物です。
	区長会の「あて職」が多すぎて負担が大きく、大変である。	総務部　総務課	担当部署へ確認したところ、「各町域とも概ね、市教育委員会の青少年健全育成関係、地区交通安全、防犯関係、社協等関係団体の委員等約10役職程度、団体の委員をお願いしている状況にあるようです。 今後とも、協働の観点から地域団体の活動との連携は重要ですので、行政が関係するものについては、総合支所・関係機関と協議を行い、区長会長等一部の方々に出来るだけ過重な負担とならないよう取り組んでまいります。」と回答がありました。
	区長会の会長をやっているが、仕事（あて職）が多い。数えたら約30もある。津山公民館の指定管理も担っているが、何もない（金銭的に）。何かいい考えはないか。	総務部　総務課 教育委員会　生涯学習課	（あて職の内容については、上記の回答と同様です） 担当部署へ確認したところ、「公民館の指定管理者の役員手当等については、指定管理料の積算上、計上していませんが、指定管理者により、支給しているケースもあります。このことから、実態に即した指定管理料となるよう、今後検討していきます。」と回答がありました。
	気仙沼線の維持管理を徹底してほしい。	企画部　市民協働課	JR気仙沼線については、登米市と関係市町及びJR東日本が協議の上、現在の鉄道敷をBRT専用道として整備し、鉄道と遜色ない運行方法によりBRTによる復旧とする方向性が示されました。このことから、今後、JR東日本において、維持管理されるものと考えています。